資料3
（現地調査結果について）

共通事項

1　事業概要

石川県	地域交流による 高等学校活性化事業	県内十数カ所の県立高校において、地域の様々な資源を題材に地域交流活動（※）を実施。当該活動を通じ、生徒は地域愛を醸成、教員をはじめ学校は、地域から愛される学校形成、引いては進学率の向上を図ることを目的に実施。
石川県	石川地域づくり塾	石川地域づくり協会（事務局：県地域振興課、以下「協会」という。）が主催する事業。県内で地域づくりに取り組む人材の実力を高め、各地での地域づくり活動を活性化させると共に、地域づくり人材のネットワークを築くことを目的に開催。平成１６年度に事業が開始、当初は単発の講座として実施していたが、様々ニーズを汲み取る中、平成２２年度から現在の連続講座形式に変更、今はできていないが、以前は合宿も取り入れた形で実施。卒塾された方のところへ訪問する等のフィールドワーク作業もあった。
岡山県	おかやま創生 高校パワーアップ事業	地域の課題やニーズを踏まえ、おかやま創生を担う人材の育成や地域の活性化に貢献する高校の魅力を図る。（平成28年度～平成30年度）推進校は、推進校及び地域の関係者等からなる組織（地域連携組織）を設置し、地域に貢献する人材の育成とともに、地域資源の活用や地域の課解決を目指した教育を実施する。推進が地域の実態に即した取組を効果的に進めるため、本事業に係る支援業務を岡山大学地域総合研究センターに委託する。
岡山県	高等学校 魅力化推進事業	岡山県立高等学校教育体制整備実施計画（H31.2策定）に基づき、県立高校の魅力化を図る。（1学年3学級規模の学校が対象） 指定校は、指定校及び地元自治体、企業、大学、NPO法人等からなる地域連携組織を置き、地域との連携の在り方等を研究し、教育内容の質の確保・向上に向けた高校の魅力化を推進する。
岡山県	アートで地域づくり 実践講座	地域のイメージアップとにぎわい創出を促進するアートイベント等を展開するための企画力、コーディネート力、広報技術などのスキルを備えた人材を育成する講座
秋田県	若者チャレンジ応援事業	秋田の将来を担う若者の地域活性化に寄与する戦略的取組を応援（補助金交付や伴走支援）する事業。
秋田県	若者と地域をつなぐ プロジェクト事業	高校生等が自分の住む地域を主体的に見つめ直す機会を提供し、地域の課題や疑問点等を解決するための取組を支援する事業。
栃木県	栃木県地域づくり 担い手育成事業	地域づくりに関わる人材の掘り起こしと地域づくり活動への定着及び継続性の確保を目指した研修プログラムを実施。
山口県	やまぐち元気生活圏づくり 協働支援事業 （人材育成事業）	「やまぐち元気生活圏」づくりに向け、地域づくり人材・団体の育成など、市町地域への支援体制の強化を図る。
山口県	地域活性型 インターンシップ推進事業	地域の関係機関等と連携して地域活性化に向けた取組を実施する高等学校等に経費を支援。

２　経緯、前身となる事業など

石川県	地域交流による 高等学校活性化事業	幅広い進路ニーズが求められる比較的小規模な高等学校において、生徒にとっては、地域の魅力の再発見、教員にとっては、地元中学校との連携による接続を図ることを目的に平成２５年度から実施。
石川県	石川地域づくり塾	協会の加入団体のための還元事業として開催。加入団体は無料で受講することが可能。加入団体は年々増加し、平成6年の設立当時は43団体であったが、現在１５９団体まで増加。加入団体に話を聞くと、本事業に参加できるので加入したといった話もあったとのこと。
岡山県	おかやま創生 高校パワーアップ事業	【経緯】岡山県内の高校は以前から地域学を取り入れているが、徐々に高校の規模縮小が進む中で、更に地域と連携しながら双方の魅力づくりを推進しなければならないという状況下であった。 【本事業の前身】「高等学校魅力化プロジェクト支援事業」という名称で、平成25年から3年間実施。（平成25年～平成28年）地域と連携を意識した事業。そのあとを受けて、本事業を平成28年度から開始。
岡山県	高等学校 魅力化推進事業	（経緯）岡山県内の高校は以前から地域学を取り入れているが、徐々に高校の規模縮小が進む中で、更に地域と連携しながら双方の魅力づくりを推進しなければならないという状況下であった。 （本事業の前身）「おかやま創生高校パワーアップ事業」という名称で、平成28年度から開始。（～平成30年度まで） 高等学校魅力化推進事業は、おかやま創生高校パワーアップ事業をブラッシュアップした事業で、今まで以上に学校と自治体を含む地域、企業等との繋がりが濃くなった。学校側も地域に出る機会が増え、ボランティアとしてではなく、事業として連携することができた。また、今まで以上に自治体に対する帰属意識が高まった。岡山大学への委託を行わず、各学校にコーディネーターを配置した、自走の形となっている。3年間縛りの事業で、令和3年度に終了。
岡山県	アートで地域づくり 実践講座	（経緯）地域の活性化を進めるには、交流人口の増加が必要であり、その有効な手段の一つとして、文化芸術を活用し、地域のイメージアップとにぎわい創出の促進を図る。地域で発掘、育成した文化を活かして、集客力のある企画を行うなど、アートマネジメント力のあるキーパーソンが地域に育つことが必要。単発のアートイベントにおいて、大きな集客効果やバスツアー・旅行商品化などの効果がみられたことから、同様の効果を県内全域に広げるための素地づくりとして、人材育成が必要と思慮。 （本事業の前身となる事業） ・H26～28　地域と人を文化でつなぐキーパーソン育成事業（まちアートマネジメント講座）：6,194千円 ・H29～R2　文化プロジェクト推進事業 ・R3～　アートプロジェクトおかやま推進事業
秋田県	若者チャレンジ応援事業	（至った経緯） 若者の県外流出によって人口の社会減に歯止めがかからないことから、地域活性化を図るため、若者の取組みを応援しなければということで令和元年度から秋田県庁が全庁的に応援し、推し進めている事業。 （本事業の前身）前身の事業はなし。
秋田県	若者と地域をつなぐ プロジェクト事業	（至った経緯）若者ならではのアイデアや提言をする機会がない、そもそも秋田県の地元地域を知らない状況からその機会をもつため。 （本事業の前身）前身の事業はなし。
栃木県	栃木県地域づくり 担い手育成事業	H23年度から地域づくりや地域課題解決のためのワークショップを随時開催し、その後、H28年度に地域づくりに関心のある若者などを対象としたワークショップや講座を組み合わせたプログラムにより、地域づくりの担い手を育成する事業を展開しており、R3年度からは、地域づくりに興味がある若者向けに「とちぎ地域づくりインターンシップ（以下、インターンシップ）」、実践者向けに「地域づくりスキルアップ講座」のかたちに再編し現在に至る。とちぎ地域づくりインターンシップでは高校生や大学生などの若者中心に受講対象を明確化している。
山口県	やまぐち元気生活圏づくり 協働支援事業 （人材育成事業）	（至った経緯）高齢化の進行により地域を担うリーダーや人材の不足等の課題があり、実施に至った。平成１８年３月、中山間地域づくりビジョンを策定し、平成１８年４月、県庁内に中山間地域づくり推進室を立ち上げ、平成１９年度より、本事業の前身となる中山間地域対策に関する人材育成事業を実施。 （本事業の前身）中山間地域対策に関する人材育成事業（平成１９年度～）
山口県	地域活性型 インターンシップ推進事業	普通科高校を対象に、平成２４年度までは「企画・研究型インターンシップ」（地域の大学、地元の企業や自治体等と連携して、生徒の学習内容や将来の進路　希望に応じた共同研究や共同開発を行う取組）、平成２５年度は「１次産業インターンシップ」（地域の事業所、大学・研究機関、自治体等において、生徒の学習内容や将来の進路希望に応じ、６次産業を視野に入れた１次産業に関する一体的な就業体験を行う取組）を実施したが、地域社会と連携したより幅広い体験活動を可能とするために、両事業の要素を統合し、平成２６年度から「地域活性型インターンシップ」を実施することとなった。

３　予算要求・企画準備段階で苦労した点

石川県	地域交流による 高等学校活性化事業	本事業は、教育委員会で指定された学校（指定校）にて実施。指定校においては、地域との対話や生徒達の様子などから実施事業を教育委員会に対して提案。教育委員会が採択することで実施となる。（1校あたり10万程度）年間予算120万円、11校にて実施。全部で県内に全日制の県立高校は38校あるが、指定されている学校に変更はない。
石川県	石川地域づくり塾	県は、実施主体である協会に負担金を拠出している。従って直接の支出はなく予算化もしていない。負担金のあり方について議論があったかどうかは不明。
岡山県	おかやま創生 高校パワーアップ事業	岡山県と岡山大学ともに、初めての取り組みであったため、高校にどこまで踏み込んでいくかの判断が難しかった。特に、将来は自走することを目標としているため、岡山大学から学校にあまり踏み込みすぎないことに留意した。
岡山県	高等学校 魅力化推進事業	コーディネーターの予算は人件費100万、事業費は50万。財源をどこにするのか、県教育委員会の単体予算では難しかったので、部局予算とのタイアップを図る調整が必要であった。目玉はコーディネーターの配置であり、個人ではなく団体に委託の方法が複数立出来るのでよい。
岡山県	アートで地域づくり 実践講座	（苦労した点と対応策） 当初は、講座の内容を講師に任せており、臨機応変にイベント開催に向けて講座の内容を調整していたため、スケジュールによっては説明しない事項もあった。過去の講座の内容をまとめ、テキスト化。講座の中でもテキストとして活用し、説明が不足した際の補足や予習・復習をしやすくしている。当日のイベントの運営は、臨機応変に対応することが多く、ノウハウも残らず振り返りも記憶をたどるしかなかったため、講座としては十分とは言えなかった。イベントごとに実施計画書の作成をさせることで、ノウハウの蓄積、振り返りの材料とするようにしている。 11月末のイベント終了後は、講座の主たる目的であったイベント開催がなくなるため、モチベーションの低下が見られた。イベント後の講座である助成金の説明の際、単なる助成金制度を説明するのではなく、実際に助成金の企画書を受講生に提出させることで、モチベーションの維持と講座修了後の各自での地域づくり活動の後押しを行っている。11月末のイベントは、受講生が考えたコンセプトに基づき、受講生同士の協議により実施する企画を決定するが、イニシアチブを取る受講生がいない場合は、企画自体が決まらず、詳細について詰め切れないままイベント当日を迎えることがあった。正規の講座外で臨時講座を行い、イベントに向けた準備を進めた。
秋田県	若者チャレンジ応援事業	事務費・補助費を含め、4,000万円規模の事業となっている。令和元年度の創設当初は、3,000万規模の事業。予算規模は年々拡充している。秋田県議会の肯定的な支援もあり、また県知事肝煎りの事業となっている。
秋田県	若者と地域をつなぐ プロジェクト事業	教育委員会との連携は、チラシ等の配布程度で、それ以外は特に連携なし。
栃木県	栃木県地域づくり 担い手育成事業	庁内では、ある程度継続した事業として認知されている。R3年度の事業再構築は、委託先への仕様書内容の変更にて対応。内容を検討する際には、これまでの実施結果を踏まえつつ、庁内の県民協働の担当部署などにも話を聞きながら行なっている。
山口県	やまぐち元気生活圏づくり 協働支援事業 （人材育成事業）	昔から実施している事業で、新たに予算獲得等で苦労したことはない。本事業の企画・準備段階において、各中山間地域で課題が異なるしまた取り組み方も様々。そのため、どのように地域に訴えていくか、学んでいくかに気を遣っている。また、企画・準備段階において、市町や委託業者ともコミュニケーションがとれているため、事業を実施できている。
山口県	地域活性型 インターンシップ推進事業	年々予算が縮小し、限られた予算の中で分配しなければならないこと。今年度、9校想定募集したが、11校の応募があった。圧縮して、どう配布するかが苦労した。全体120万円予算で、1校あたり12万5千円程度。

４　市区町村との協働・連携

石川県	地域交流による 高等学校活性化事業	本事業の内容として、近隣小中学校の授業参観や教員同士の交流などといった取組みがある。このため市町とは密接に連携する中で事業を実施している。 門前町においては、マラソン大会の交流はあるが、それはこの取り組みとは別で伝統的なものである。
石川県	石川地域づくり塾	本事業の募集にあたっては、市町村にも協力を得ている。また受講生には「地域おこし協力隊」も含まれ、市町村の人材育成の機会としても活用されている。
岡山県	おかやま創生 高校パワーアップ事業	地域連携組織を設置し、市町村関係者が参画した。そのことにより、市町村が実施する行事等に学校がより積極的に関わることができるようになった。
岡山県	高等学校 魅力化推進事業	連携組織は自治体ごとで、学校や自治体によって対応は様々であり、連携組織に首長が参加している場合もあれば担当課のみの場合もある。一市町に一校しかない自治体の方が力を入れている印象があり、積極的な関わりがある。入学時の補助、通学の補助等の施策として取り組む自治体もあった。
岡山県	アートで地域づくり 実践講座	前年度から各市町村の意向等を確認しながら、当該講座開催に協力いただけそうな市町村を選定している。開催市町村には、講座やイベント会場の提供や紹介などをお願いするほか、受講生への地域事情の紹介や、地域の方への参加の呼びかけ、協働先の紹介、イベントの後援などをお願いしている。企画するイベントにより一概には言えないが、過去の具体的な例としては、幼稚園児との共同作品作成のための段取りや、市町村が有する会場や備品の無償貸与やノベルティの提供、実証イベントプレゼンテーションへの参加などが事例としてある。
秋田県	若者チャレンジ応援事業	今のところ活動している地域の市町村との連携等はなし。（資料上にこれまでの実績として3事例（クラフトサケ、ジェラート、サウナ）を掲載）本事業は、県が単独で実施。そもそも若者支援の情報等が市町村まで行き届いていないのが実情。（チャレンジネット予算化できず）
秋田県	若者と地域をつなぐ プロジェクト事業	本事業は、県単独で実施。県内の市町村との連携等はなし。周知についてもチラシの配布程度。
栃木県	栃木県地域づくり 担い手育成事業	事業の参加者募集に際しては、各市町の地方創生担当部署等にも協力を得て、チラシ等の配架、配布を行っている。事業の実施にあたっては、現在、市町との特段、連携は行なっていないが、講座の内容に「行政と民間との連携」といった視点も取り入れるようにして関心を持ってもらうよう工夫している。例えば、スキルアップ講座では、市町職員に講師を務めてもらう場合もある。
山口県	やまぐち元気生活圏づくり 協働支援事業 （人材育成事業）	事業の実施のお知らせは、市町から各団体に声をかけてもらっている。また、県内の取組み事例の発表に係る調整等は市町にお願いしている。地域団体活動の情報や団体への声がけ、また（研修内容を）地域づくりに生かしていくということで実を結ぶため、市町との協力は不可欠だと考える。
山口県	地域活性型 インターンシップ推進事業	市町との連携はない。各学校と各地域の市役所において、参加内容によっては連携している。実施計画書、事業支援報告書以外で把握できるものがあるかもしれないが、明記していない部分に関しては分からない。

５　受講費・参加費の検討

石川県	地域交流による 高等学校活性化事業	生徒の費用負担はない。そのような検討をした形跡もない。（交通費等はあるかもしれないが、把握している範囲ではない。）
石川県	石川地域づくり塾	参加費は個人１万円（学生５千円）を徴収している。無料にしてしまうと、連続して受講する意欲が続かないのではないか。漫然とした姿勢で講座に臨んでも成果が上がらないのではないか。といったことから会費制としている。 加入団体に所属している方などは無料で、地域おこし協力隊は半額。
岡山県	おかやま創生 高校パワーアップ事業	受講費や参加費などの対価の徴収はなし。
岡山県	高等学校 魅力化推進事業	受講費や参加費などの対価の徴収はなし。
岡山県	アートで地域づくり 実践講座	受講費として年間5,000円（学生は3,000円）を徴収している。
秋田県	若者チャレンジ応援事業	申請者の費用負担なし。
秋田県	若者と地域をつなぐ プロジェクト事業	申請者の費用負担なし。
栃木県	栃木県地域づくり 担い手育成事業	事業趣旨や対象者の年代等も考慮し、現状、対価の徴収について検討したことはない。
山口県	やまぐち元気生活圏づくり 協働支援事業 （人材育成事業）	対象者の費用負担はなし。（参加者は高齢化が進み、バスで来る人が多いため、借上げバスを準備している団体もあるような負担が発生。）
山口県	地域活性型 インターンシップ推進事業	対象者の費用負担なし。

６ 期待する参加者の属性等

石川県	地域交流による 高等学校活性化事業	生徒本位の事業、高校1年生から3年生まで、各学校で取り組んでいる。
石川県	石川地域づくり塾	参加者の属性は年齢にしても所属にしても様々。 若い方は大学生（オンライン参加）、上は70歳近くの方が2名、今年は全体で14名。 それぞれ課題意識を持って本事業に参加しており、講座を通じて得たヒントやネットワークを駆使して課題解決に取り組んでもらいたい。
岡山県	おかやま創生 高校パワーアップ事業	基本的に学校単位で参加するものであり、期待する方の属性等はない。誰が参加するか、どの学科にするかは学校の判断による。
岡山県	高等学校 魅力化推進事業	基本的に学校単位で参加するもので、期待する方の属性等はない。誰が参加するか、どの学科にするかは学校の判断による。
岡山県	アートで地域づくり 実践講座	開催地域の住民が多く参加してもらいたいが、開催場所によっては開催市町村の住民の参加がない場合もあった。ただし、イベントを通じて開催市町村との縁ができたことで、居住していなくても講座後に開催市町村で引き続きイベントをするようなケースもある。総じて女性の参加が多い。
秋田県	若者チャレンジ応援事業	年齢要件は、18歳以上40歳未満。男女比について、考えなければいけない点ではないかと事務局内部で協議しているが、現在、特にルールを設けていない。
秋田県	若者と地域をつなぐ プロジェクト事業	県内の高校生・専門学校、大学に在学中の2～3名のグループ参加。令和2、3年度までは社会人も可能にしていたが、令和4年度は、学生に対象を絞った。
栃木県	栃木県地域づくり 担い手育成事業	インターンシップは高校生から大学生がターゲット。今年度の受講生は17歳から25歳とほぼ狙い通りとなっている。今の20～30代の世代は、イベントに参加したいとの思いが強いと思う。受講動機は、大学で地域づくりの学部に所属し、実践とのことで受講する者、あるいはコロナ禍で課外活動が少なく悩みを持っていた者など様々。多くの受講生は、最初から「地域づくり」に取り組みたいと思って入り込んではいない。自分が気になること、やってみたいことなど、いわば生活の延長線上にあることに取り組んだ結果が「地域づくり」であり、周囲の笑顔を生み、感謝される。スキルアップ講座は、インターンシップよりも対象者の上限は高めに設定。結果的に、30代、40代が3割以上参加。この世代が一番地域との関係が疎遠と思っていたが受講いただいている。大きな発見だと思っている。
山口県	やまぐち元気生活圏づくり 協働支援事業 （人材育成事業）	事業のなかでも、支援者のつどいについては、地域づくり団体、集落支援員、行政職員と対象者を絞っている。それ以外は、幅広く対象としている。中山間地域に携わっている、今から中山間地域に携わりたい等という方を対象としているため、現在の結果に繋がっている。今回男女比の調査があったので、確認したところ多くはないが女性の参加もある。女性が集落支援員になっていることからかもしれない。
山口県	地域活性型 インターンシップ推進事業	高校1～3年生を対象。学年は絞っていない。

7　募集方法

石川県	地域交流による 高等学校活性化事業	学年の全生徒を対象としたものから希望者によるものまで様々で、生徒の事情も勘案し実施している。 学校が生徒に提案している。
石川県	石川地域づくり塾	市町村役場等でのパンフレットの設置、マスコミへの情報提供（メルマガ・SNS等）、新聞広告欄（県庁欄）への掲載などにより行なっている。参加者が様々であるため、高齢の方は新聞広告といったように、属性に応じ効果的な伝達方法があると思う。
岡山県	おかやま創生 高校パワーアップ事業	県が学校を指定。基本的に都市部ではない学校を選んでいる。さらに、地域との連携を狙っていることから、地域と連携した教育活動を必要としている中山間地域にある学校を選定。事業は1期（平成28～30年度）に6校、2期（平成30～令和2年度）に4校で、計10校を指定。学年の指定はなし。
岡山県	高等学校 魅力化推進事業	1学年3学級規模の高校を対象に県が指定。 岡山県で一番小さい規模の学校が1学年3学級であることからこのようにしたもの。
岡山県	アートで地域づくり 実践講座	県ホームページへの掲載の他、県内市町村や関係文化施設等に設置したチラシによる募集。そのほかラジオやSNS等での広報も行っている。参加する属性を考慮し、美術館・図書館の他、ギャラリーやカルチャースクール等でもチラシを配付したことが効果的であったと考えている。
秋田県	若者チャレンジ応援事業	以前は、ポスター・チラシ等の紙媒体で募集してきたが、今年度はSNS広告で募集した。以前は、応募者が減少傾向となっていたが、今年度は増加傾向で、若者はSNSを見ていると感じた。
秋田県	若者と地域をつなぐ プロジェクト事業	幅広い地域からの参加者を募るため、SNSでの参加者を募集。学校単位ではなく個人エントリーの形をとっている。学校側にも資料を提供するが、関心がある教師・学校によって温度差があるため、個人単位にした。
栃木県	栃木県地域づくり 担い手育成事業	若者を対象としているので、様々なSNSメディアを活用。また、とちぎユースサポーターズネットワークの共有プラットフォーム的なウェブサイト「あしかもメディア」も活用し、興味関心のある若者にきめ細かく情報を届けている。ただ、いろいろ周知の方法は採っているが、直接会って事業の内容を伝えることが、実際の参加に繋がる確率を一番高めると感じている。
山口県	やまぐち元気生活圏づくり 協働支援事業 （人材育成事業）	県から市町を通じて、募集をしている。他には、県HPで募集、記者配布、県の地域おこし協力隊Facebookで募集、委託業者のFacebookで募集を行っている。実際は地域づくり団体からの参加者が多いため、市町からの声掛けが大きいと感じている。
山口県	地域活性型 インターンシップ推進事業	県から各学校の校長宛てに文書で通知している。その後、希望意思のある学校から実施計画書や予算書を提出してもらい、内部で審査し、実施校を指定している。

８　実施方式（直営、外部委託、実行委員会）

石川県	地域交流による 高等学校活性化事業	教育委員会（都道府県）による直営。
石川県	石川地域づくり塾	外部委託方式を採用。本事業は、森山奈美氏（（株）御祓川、七尾市在住）の指導の下で行なわれている。同氏の豊富な経験、人脈、そして指導力が本事業の支柱であり、効果的な実施を図るため委託方式を採っている。
岡山県	おかやま創生 高校パワーアップ事業	外部委託方式 委託先は、岡山大学地域総合研究センター （上記委託先を選んだ理由） 岡山大学が平成28、29年度に、高校だけでなく、企業や自治体に入り、地域活性化について、様々な政策の助言をしていた。体制は、大学教授4人と、関係職員がおり、決して大きな組織ではないが、フットワークが軽く、委託をして効果があった。県教委だけだと、教育だけをベースにしがちであり、地域や自治体の事情が分からないため、岡山大学が入ることにより、どう地域に入っていけばいいのか、地域側がどのようにアプローチすれば良いのかを仲介し、助言してもらえた。
岡山県	高等学校 魅力化推進事業	都道府県の直営。 各学校に「地域協働活動コーディネーター」を配置することにしたため。
岡山県	アートで地域づくり 実践講座	実行委員会方式で実施している。受講生が自らイベントの予算を考え、実際に執行まで行うためには、実行委員会方式が適当であると考えている。（直営や外部委託では、受講生の自主性を発揮する場面が少なくなる。）
秋田県	若者チャレンジ応援事業	外部委託方式で実施。事業者は、株式会社ジェイアール東日本企画秋田支店。コンサルティング、広告、包括的な役割を担っている。
秋田県	若者と地域をつなぐ プロジェクト事業	外部委託方式で実施。民間のノウハウを活用することで、一括してメンタリング、伴走支援を委託している。
栃木県	栃木県地域づくり 担い手育成事業	公募型プロポーザルによる外部委託により実施している。本事業で狙いとしている若者層に対するアプローチや知見等多く有するとちぎユースサポーターズネットワークの企画提案を採用した。
山口県	やまぐち元気生活圏づくり 協働支援事業 （人材育成事業）	外部委託方式で実施。事業者は、NPO法人市民プロデュース （上記方法を採用した理由） 研修だけでなく、地域に入り、プラン作りもやっている。地域の実情に詳しい。ネットワークで講師と繋がっている。以上から、プラン作りや講師選定において、助かっている。また、NPO法人市民プロデュースは、地域づくり、中山間地域づくりを専門としてはいない。協働をテーマにしたNPOで、ボランティアのとりまとめ等を務めている。
山口県	地域活性型 インターンシップ推進事業	都道府県の直営。学校が事業を実施していくことから、県はあくまでも支援という立場。外部委託方式の採用は、今まで考えたことがない。

９　事業の特筆すべき点

石川県	地域交流による 高等学校活性化事業	地域との連携や交流を強化し、地元に愛される学校づくりを目指すとともに、地域を支える人材の育成を図る。
石川県	石川地域づくり塾	単なる座学では、新たな知識獲得の自己満足にしかならないが、本事業では、参加者に実行計画（マイプラン）を作成させている。これは受講後に活動を実行するための計画であり、連続講座中、数回にわたって、講師の指導の下プランの磨き上げを行なう。参加者は受講後に各地に戻りマイプランを実行する。
岡山県	おかやま創生 高校パワーアップ事業	特になし
岡山県	高等学校 魅力化推進事業	コーディネーターは絶対的に必要だが、学校と地域を結ぶコーディネーターに係る経費への補助は他にはなく、その点で県として支援できたところはひとつの特徴である。また、今では、コーディネーターを担いたいという高校生も出てきていることや、地元への就職希望者が増えたので、地域人材の育成という点で成果が上がっていると感じる。地域連携組織を作ることで、コミニュティスクールに移行していった。岡山県は段階的に進めているが、ほぼ導入済か次の春で導入となる。地域人材として、地元企業へ就職も増加。企業が高卒を採用、今後、高校と連携していくことで課題解決していく。
岡山県	アートで地域づくり 実践講座	地域との関わりを意識したイベントのノウハウを学ぶことで、県民が主催者としてアートイベントを自発的かつ継続的に行う流れを生み出していく。そうすることで、アーティストの活躍の場や県民が文化に触れる場が増えていき、県民の文化活動への関心を高めていく好循環を生み出すきっかけとなっている。加えて、アートを通じた地域の活性化にも寄与している。
秋田県	若者チャレンジ応援事業	若者ならではの発想を大事に、粗削りでも斬新なアイデアが出ることを期待。 補助金の使途の自由度が比較的高い。 メンタリングを行っている方が多様。 町づくりに従事している方、中小企業診断士・投資家 ビジネス視点からも懸案を評価しながら、伴走支援をしていく。
秋田県	若者と地域をつなぐ プロジェクト事業	地域についての愛着心が湧く。きれいな成果物を求めていなく、過程を大切にしている。自己を見つめ直す、着眼や感情、直観を大事にしている。
栃木県	栃木県地域づくり 担い手育成事業	インターンシップもスキルアップ講座も、単に知識の伝授ではなく、人と人との関係形成も重視している。地域の未来を担う若者の誘い込みに、とちぎユースサポーターズネットワークの知見を活かしていただきながら様々に取り組んでもらっている。
山口県	やまぐち元気生活圏づくり 協働支援事業 （人材育成事業）	・地域、市町、県外とのネットワークが盛ん。 ・NPO法人市民プロデュースが企画し、幅広い講師選定が可能。 ・NPO法人プロデュースは協働をテーマにしたワークショップが上手。聴くだけでなく、参加が可能であるという点が大きい。
山口県	地域活性型 インターンシップ推進事業	インターンシップであるため、まずは職業観の養成。それが地域活性化に繋がるというのがポイントであると考えている。さらに文部科学省の学習指導要領において、「総合的な探求時間の充実」がスタートしているため、この事業がその活用をしていくことにもなるかと考えている。

10　受講生のメリット

石川県	地域交流による 高等学校活性化事業	生徒にとっては地域愛の醸成、教職員にとっては、スキル向上、学校にとっては学校の認知度、魅力向上による進学率の向上。卒業した地域の中学校との交流を積極的に図る場面も多々ある。
石川県	石川地域づくり塾	受講生は目的意識が明確な方達なので、本事業を通じて、講師や受講生同士、様々な気づきを得ることができる。
岡山県	おかやま創生 高校パワーアップ事業	事業の中で、工業系、電気系の生徒が専門のスキルによって地域課題の解決に取り組む授業がある。地域への愛着の醸成にもつながり、結果として、これまで定員割れしていた学校が定員オーバーする等の効果が出ている。
岡山県	高等学校 魅力化推進事業	（高校が事業を受託するメリットとして回答） 事業の中で、工業系、電気系の生徒が専門のスキルによって地域課題の解決に取り組む授業がある。地域への愛着の醸成にもつながり、結果として、これまで定員割れしていた学校が定員オーバーする等の効果が出ている。
岡山県	アートで地域づくり 実践講座	自分たちが携わってコンセプトから企画内容まで考えた、イベントを自ら実践することで経験値を蓄えることができる。また、同じ志をもつ受講生とともにイベントを実施することで成功体験を得ることできる。そうすることで、講座修了後も、自発的にイベントをしてみようという意欲に繋がる。さらに、講座に集まった受講生同士はもちろん、講師陣や参加アーティスト、地域住民や行政（県職員、市町村職員）など講座を通じて関わった人たちとの縁ができ、それが受講生の財産となっている。
秋田県	若者チャレンジ応援事業	ノウハウの取得、補助金が得られる。
秋田県	若者と地域をつなぐ プロジェクト事業	地域に対する認知が高まる。学校という枠組みから外れて地域において行動する力を学ぶことができる。
栃木県	栃木県地域づくり 担い手育成事業	主に3点。 まず、若者が地域に対し、関わりしろを、自力で見つけられるかと言えば、中々きっかけがないため、本事業がその入り込みの機会を提供している点。次に、学外の交流の場の提供となっていること。学内にはない様々な考えをもった者との交流から新たな発見、気づきが生まれる。最後に、第二、第三の居場所の提供。親でも親戚でもない、教師でもない、同じ仲間、あるいは伴走支援するとちぎユースサポーターズネットワークの職員が兄姉のような存在となることで、そのような場が居場所になっている。 受講生の属性として県外からの受講者もいる。彼らにとっては、ここでの居場所が今後の居場所にもつながり、関係人口にも繋がっていくそのような期待も持っている。
山口県	やまぐち元気生活圏づくり 協働支援事業 （人材育成事業）	県内外の取組みを知ることができる。ノウハウの共有。参加者同士で話をする場が設けられ、支援者同士のネットワーク形成が可能。
山口県	地域活性型 インターンシップ推進事業	・進路選択の意識が深まる。（インターンシップ） ・自分の活動が自分たちの住む地域で貢献できているという実感を体験できる。

11　モチベーション維持・向上策

石川県	地域交流による 高等学校活性化事業	宝達高校の町中にプランターを置く取組みなど、地域住民から感謝されるようなことは生徒にとってもやりがいに繋がっているのではないかと思う。
石川県	石川地域づくり塾	受講生は事業中に「マイプラン」の作成にあたる。当初は自身の希望の羅列でしかなかったものが、講師からの指導、受講生同士の意見交換を通じ、現実味が増した事項に変化する。その一覧の過程は受講生にとって意欲向上、モチベーションの維持になっているのではないかと思う。
岡山県	おかやま創生 高校パワーアップ事業	地域（学校外）で貢献活動を行ったり、課題解決に向けた取組等を行うことで、地域の大人からの評価を得ることにより、自己肯定感、自己有用感が高まり、意欲も向上する。
岡山県	高等学校 魅力化推進事業	地域（学校外）で貢献活動を行ったり、課題解決に向けた取組等を行うことで、地域の大人からの評価を得ることにより、自己肯定感、自己有用感が高まり、意欲も向上する。
岡山県	アートで地域づくり 実践講座	受講生が主体的に講座に参加できるよう、イベント企画を考える前に地域のフィールドワークをしてもらい、自由にやりたいことのアイデア出しをさせたり、自分が参加して良かったと思うイベントのプレゼンをさせたりするなどを通じ、自らの考えを講座の中で話しやすくする雰囲気作りを図っている。イベントの概要が固まった際は、地域の人を各戸訪問しイベント概要説明の実施や、開催市町村職員に受講生からイベント内容をプレゼンする機会を設けるなどして、地域に受け入れてもらえるような機会を設けている。イベント運営の際は、責任を持って取り組む役割を１人１つは持たせるようにして、受講生全員が主体的にイベントに関わるように心がけている。イベント後にも、イベントの振り返りをさせながら自分の企画を考えさせるとともに、そのための資金が得られるよう助成金への応募を視野に入れた本格的な企画書の作成を行わせ、みんなの前でプレゼンさせることを行っている。
秋田県	若者チャレンジ応援事業	メンターを活用してワーク支援。事業は半年間近くに及ぶため、中間審査、最終審査に向けて採択者を集めて交流する機会を設けている。
秋田県	若者と地域をつなぐ プロジェクト事業	メンターの方に様々な方を採用している。例えば、デザイン事務所の方、大学の教員、地域おこしの取り組みをされている方など。
栃木県	栃木県地域づくり 担い手育成事業	事業を実施するにあたって、コーディネーターとなるとちぎユースサポーターズネットワークの職員は、公私を切り分けていない。兄、姉のような立場から様々な質問に答え、相談に乗っている。業務上だけの関係を超え、参加者との関係を深掘りしていくことを大切にしている。
山口県	やまぐち元気生活圏づくり 協働支援事業 （人材育成事業）	次回に繋がる仕掛けとして、年間計画をPRしている。ワークショップ等のなかで、他地域の取組みを知り、また自地域を紹介することで、受講者のモチベーションを高めている。外部から評価されることで、自分の励みに繋がっている。
山口県	地域活性型 インターンシップ推進事業	実践に関しては各学校に一任。県から各学校に働きかけはしていない。

12　成果発表や振り返りを通じた受講生の反応

石川県	地域交流による 高等学校活性化事業	白山市にある鶴来高校のジオパークフィールド活動の取組みは、全国大会での活動成果の発表に繋がっている。
石川県	石川地域づくり塾	（本質問については、事務局にて成果発表会を取材した状況を報告。（詳細は別紙「令和4年度　石川地域づくり塾成果発表会　視察結果」に記述） 今年度の受講生は、地域住民、大学生、福祉団体関係者、地域おこし協力隊と様々で、それぞれ、地域の担い手不足、空き家問題といった身近な社会問題から起業、事業化といった幅広い課題意識を持った方が受講された。解決に向け当初漠然としていたビジョンが、資金集めにクラウドファンディングの活用。あるいは市役所との交渉。地域の様々な方の誘い込み。といった手法を学ぶことで鮮明化していくのを実感できたと。今後は計画を着実に進めていこう。そういった前向きな姿勢が伺えた。また、それぞれの発表に対し、聞いていた受講生が前向きコメントを付箋出しており、実行への後押しになっているものと思われた。
岡山県	おかやま創生 高校パワーアップ事業	事業報告書より要約 参加した生徒に対するアンケート結果から共通する特徴が見られた。それは、1年生の終了時においては、1年間の地域学や先輩の活動に触れ、いかに自分が地域のことを知らないかを自覚する傾向が強く、2年次に、本格的に地域学に取り組み始め、地域課題、あるいは調べ学習、提案づくり、グループ作業を体験。そして3年生、特に卒業を前にした段階になると、これまでの活動を通じ、地域での活動の達成感、あるいは、活動を通して地域貢献の想いが強まるとの特徴が見られた。
岡山県	高等学校 魅力化推進事業	県の方では特段把握はしていない。 各学校より提出された事業報告書において一部感想等の報告あり。 ※笠岡商業高校における「地域と連携した「高校の魅力化」フォーラムにおける生徒からの取組み感想（抜粋） ・発表を聞いて私たちのような高校生が情報発信していくことの大切さを改めて思った。 ・観光ガイドになりきって発表していて、北木島に行ってみたいと思いました。 ・ガイド形式で発表が面白かったです。実際にツアーに行った気分になりました。 ・質問の回答も素晴らしかったです。　・笑顔で発表していて良かったです。　・北木島の魅力を伝えたいという思いがよく感じられました。 ・ガイド（生徒）の皆さんの声が明るくて、楽しく北木島のことが学べました。　・笠SHOPの活動はすごい、楽しそうだし、おもしろそう。
岡山県	アートで地域づくり 実践講座	受講修了生の同期と会える機会を作ってほしい。
秋田県	若者チャレンジ応援事業	過去、採択された19件の状況、成果を映像化（YouTube）しようと進めている。県のHP、「若チャレ」などでも取り組みを見ることはできる。映像化できたらSNSなどで発信していく予定。また、成果が出た人は、県知事表敬を行う等、事業の認知度を上げたい。
秋田県	若者と地域をつなぐ プロジェクト事業	今年度は、12/18（日）に成果発表会を開催。各グループの取組の成果や今後の課題等を発表。オンライン配信を予定。
栃木県	栃木県地域づくり 担い手育成事業	※別紙「合同報告会の様子」参照
山口県	やまぐち元気生活圏づくり 協働支援事業 （人材育成事業）	（中山間地域づくり収穫のつどい） 事業を活用し、こんな取り組みをして成果が出たということを発表してもらうのがメインである。
山口県	地域活性型 インターンシップ推進事業	受講者の反応や感想について、共通の成果発表等があるわけではないため、実績報告書から読み取る形となっている。その中で、地域社会、産学への理解が深まり、地域に対しての愛着が深まった。積極的に校外に出て行く、その様子を発信することにより、自分が地域の活性に貢献しているという実感を得た等、参加している高校に共通している感想である。

13　受講生に最も期待すべきこと

石川県	地域交流による 高等学校活性化事業	「ねらい」にあるとおり「地元に愛され必要とされる学校づくりを目指すとともに、地域を支える人材の育成を図る。」ことを期待。その成果は、地域資源の再発見であったり、地域住民との交流であったり、地元産業理解の促進であったり、事業によって発現の仕方は様々。
石川県	石川地域づくり塾	繰り返しになるが受講生が講師の指導の下で作成した「マイプラン（実行計画）」。受講生には、このプランを実行してもらうことを期待している。
岡山県	おかやま創生 高校パワーアップ事業	（成果）地方創生における高校教育の重要性に注目し、高校生に対して知識や技術を付与することのみでなく、地域を担う気持ちと、地域への愛着や誇りを醸成することを従来にも増して重視し、地元への就職や将来のUターンにつなぐことを強く意識する。 （確認する方法） ・地域連携の更なる推進と地元産業の振興への寄与（ex 社会貢献活動へののべ参加者数） ・グローバル人材育成の推進（ex　実用英語検定の受検者数と合格者数） ・グローカル人材育成の推進（ex　学校自己評価アンケート） ・地域スポーツの振興への寄与（ex　大会への出場チーム数）
岡山県	高等学校 魅力化推進事業	（成果） ・県立高校の魅力化の促進、地域人材の育成を図る （状況を確認する方法） ・事業実施校への地元中学校卒業者の進学割合 ・入学者数 ・高校が所在する市町中卒者の本校への進学割合 ・指定校が独自に定めた指標
岡山県	アートで地域づくり 実践講座	修了生が次年度以降、自分たちで企画したイベントを各所で展開してくれていること。修了生には、活動状況について報告するよう依頼はしており、実際に、活動報告やチラシの送付なのでわかる場合もあるが、情報が入ってこない場合もありえる。ホームページやSNSで調べられる範囲では事務局で確認している。
秋田県	若者チャレンジ応援事業	県外への若者人口の流出を防ぎ、県内での着地ができるような活動を実施していくことが最大の目的・目標。また、受講者以外の周りの方がともに取り組みの輪に加われるのが成果であると考える。
秋田県	若者と地域をつなぐ プロジェクト事業	即効性はない、課外活動だと思っている。社会づくり、地域づくりの関心が低い若者に関心を持ってもらうことができる。
栃木県	栃木県地域づくり 担い手育成事業	各インターン先の取組みに関心を持ってもらい、多くの受講生に、その取組みを継続してもらいたい。そのようにして人材を増やし、インターン先はじめ地域づくり団体の活性化、団体相互の連携が図れればと期待している。
山口県	やまぐち元気生活圏づくり 協働支援事業 （人材育成事業）	刺激、気づきを受け、やる気を高め、自分たちの地域で実践してもらうことを期待している。他地域の方と知り合いになり、ネットワーク形成を図ることが成果。
山口県	地域活性型 インターンシップ推進事業	①地域の活性化に自分たちの行動や活動が貢献しているのを実践できること。 ②職業観の養成 ③進路選定に主体的に取り組んでいく力に繋がっていくこと。（状況の確認方法） 実施報告書で確認

14　市区町村が行なう地域づくり活動への寄与（貢献）

石川県	地域交流による 高等学校活性化事業	市町村立の小中学校との交流により、高校の教員の授業力を一層高めることが可能となる。
石川県	石川地域づくり塾	まず地域おこし協力隊。本事業を通じて得た知見やネットワークを活用し、効果的な地域活動が行えるものと思われる。また本事業で起業・事業化のマイプランを作成した者もあったが、定住といった効果にも繋がるのではないか。あるいは福祉系団体の関係者も参加が多く、以前は子ども食堂を運営される団体の方の参加もあった。地域福祉の面にも効果があるのではないかと思う。
岡山県	おかやま創生 高校パワーアップ事業	高校生には“探究”が求められ、課題を見つけるように設定し、解決するプロセスが大事であるが、学校だけの関わりだと限られた範囲でしかできない。学校外に出ていく際、市町村からは、課題解決学習に一緒に協力してほしい。地域課題が小さな市町村であっても、そこに含まれる課題は、大きくすれば日本の課題でもあるため、高校生の時に知ることはとても重要。市町村には、このことを高校生に共有してほしい。
岡山県	高等学校 魅力化推進事業	高校生には“探究”が求められ、課題を見つけるように設定し、解決するプロセスが大事であるが、学校だけの関わりだと限られた範囲でしかできない。学校外に出ていく際、市町村からは、課題解決学習に一緒に協力してほしい。地域課題が小さな市町村であっても、そこに含まれる課題は、大きくすれば日本の課題でもあるため、高校生の時に知ることはとても重要。市町村には、このことを高校生に共有してほしい。
岡山県	アートで地域づくり 実践講座	修了生が次年度以降、地元市町村なり、開催市町村なりで、アートを活用した地域活性化イベントを展開してくれることで貢献できるものと考えている。また、受講生の中には、市町村職員や地域おこし協力隊の方も参加している こともあり、講座の学びが直接活動に活かされている例もある。
秋田県	若者チャレンジ応援事業	起業、雇用の創出 地域の活性化 若者の施策は単発的に出ているが輪が広がっていくのを支援していくのが県の役目だと思われる。
秋田県	若者と地域をつなぐ プロジェクト事業	意識を高めてもらって将来的に寄与してもらう。
栃木県	栃木県地域づくり 担い手育成事業	インターン先の活動は、住民に身近な社会課題ばかり。本事業を通じて、これら活動に担い手となってくれれば間接的にも市町村の地域づくりに寄与するものではないかと思っている。
山口県	やまぐち元気生活圏づくり 協働支援事業 （人材育成事業）	市町から、他地域ではどのような取組みをしているか、という質問が多くある。この事業を通じて、県内の各地で取り組んだことを発表することで共有できる。
山口県	地域活性型 インターンシップ推進事業	・市町との連携 ・高校生ならではの視点が反映されている取組みとなれば良い。 ・参加している各校がバラバラの取り組みで、内容もまちまちであるが、第一次産業から宇部市のSDGsまであるので、それがそれぞれ少しでも貢献できるのではないか。

15　関係者にとってのやりがい

石川県	地域交流による 高等学校活性化事業	本事業は、各学校の提案によって実施されている。地域の実情を見つめ、今後に向けて真に必要な事業を検討し事業化しており、地域との協働を通じその事業が実施できることは、学校にとって大きなやりがいになるのではないかと感じる。
石川県	石川地域づくり塾	協会の事業ということで、本事業を通じて協会の存在意義の認知拡大が図れること。また修了者が地域活動に従事することで協会の理解者となりサポーターとなり、引いては担い手まで発展することも期待している。
岡山県	おかやま創生 高校パワーアップ事業	地域が関わることにより、学校の新たな魅力が生まれたり、地域に少しでも活力が出てくること。また学校外の大人が生徒に関わることにより、学校内だけでは見られない生徒の変容（成長）が見られる。
岡山県	高等学校 魅力化推進事業	地域が関わることにより、学校の新たな魅力が生まれたり、地域に少しでも活力が出てくること。また学校外の大人が生徒に関わることにより、学校内だけでは見られない生徒の変容（成長）が見られる。
岡山県	アートで地域づくり 実践講座	受講生同士はもちろん、講師陣や参加アーティスト、地域住民や市町村職員など講座を通じて関わった人たちとの縁が、次年度の事業や他の事業でも連携することができている。受講修了生が試行錯誤しながら自分でイベントを企画・運営したものを見ると成長や頑張りが伝わることから講師陣や事務局員としてもやりがいがある。
秋田県	若者チャレンジ応援事業	交流会やSNS等を通じて地域活性化に寄与しようとする人同士の繋がりが生まれること。
秋田県	若者と地域をつなぐ プロジェクト事業	①地域の活性化に携わり、人との繋がりが構築される。 ②高校生の考え方、斬新な考え方、アイデアは今後の事業立案・施策のプラスになる。
栃木県	栃木県地域づくり 担い手育成事業	主催者である県では、受講生の若者やとちぎユースサポーターズネットワークのコーディネーターとのやり取りから様々な発見、気づきを得ている。またインターン先の活動の様子など、庁舎内に居ては分からないことを知ることができる。
山口県	やまぐち元気生活圏づくり 協働支援事業 （人材育成事業）	地域づくりが進むこと。参加者同士が繋がっていくことが大きなやりがい。主体的に動き、新たな活動がスタートできる。点が線となり、繋がっていく、取組みが重層化していく。
山口県	地域活性型 インターンシップ推進事業	・地域活性化に関わっているという実感 ・キャリア教育

16　修了生との関係維持

石川県	地域交流による 高等学校活性化事業	OB・OG が現役生徒の学習・進路相談等にあたるといった取組みがある。内灘高校 などは頻繁に行っている。
石川県	石川地域づくり塾	特にない。ただ協会の事業で、加入団体も参加することから、協会の方での関係維持というのは図れるのかと思う。以前は冊子などを発行されていたようであるが、近年は滞っている状態である。
岡山県	おかやま創生 高校パワーアップ事業	個別に県としては把握していない。 （本事業により、地域との繋がりが濃くなったとの声はどの学校からも聞いている。）
岡山県	高等学校 魅力化推進事業	県としては把握していない。
岡山県	アートで地域づくり 実践講座	受講終了後も修了生が行うイベントへの助成を行う他、修了生へのアンケートを行っている。また、アンケートに基づくフォローアップ講座を行い、関係を維持している。さらに、講師は、修了生からのイベント実施に向けた相談も受けるなど、講座修了後のフォローアップも行っている。そのほか、修了生のイベントへの参加や情報交換を継続し、人間関係による繋がりの維持にも努めている。
秋田県	若者チャレンジ応援事業	映像化。事業紹介にあたってのストックとしての活用。
秋田県	若者と地域をつなぐ プロジェクト事業	具体的な取組みはなし。受託している業者がフォローアップしている。また、以前参加したチームのメンバーが、運営側として参加していることがある。
栃木県	栃木県地域づくり 担い手育成事業	これまでも若者向けの講座への参加者が、団体を立ち上げ、実践者向けの事業の講師となるなどの関わりができているケースがある。修了後も継続的に関わりを持っているか状況把握など努めており、なるべく関係が途切れないようにしている。
山口県	やまぐち元気生活圏づくり 協働支援事業 （人材育成事業）	終了後、アンケートを実施。その中で、今後のお知らせの可否について、メールアドレスを記載してもらえれば、メールで案内を出している。今後の関係構築が大事であると考える。
山口県	地域活性型 インターンシップ推進事業	・県として把握していない。 ・活動によっては市町と関わっていたとしても、市町との関係性・関係維持を図る取組みについては把握していない。

17　受講生同士の自発的な関係維持

石川県	地域交流による 高等学校活性化事業	通常の卒業生との関係と考えられる。
石川県	石川地域づくり塾	事業として制度化しているものは無いが、時間の合間を見て受講生同士SNSのやり取りなどは行なっている。また協会としても情報発信を行っていきたいと考えているが積極的ではない。
岡山県	おかやま創生 高校パワーアップ事業	特になし
岡山県	高等学校 魅力化推進事業	卒業生をリストアップし、今後後輩たちとオンラインで繋がってもらえるかを確認し、了解を得た卒業生は卒業生がアクセスすると高校の時に何をしていたら良いのか、大学生はどういう生活をしているのか、といったような情報を定期的に掲載している学校が一部あると聞いている。
岡山県	アートで地域づくり 実践講座	講座内ではイベント実施に向け、LINEをフルに活用し、講師、受講生間のやりとりを進めている。また、イベント外でも受講生が自ら自主的な交流会の開催を企画するなど関係性構築に向けた取組がなされている。実際に、講座修了後もグループLINEを使い、受講生同士の活動の情報交換やアドバイス等の協力などが行われている場合もある。
秋田県	若者チャレンジ応援事業	県から採択者同士の関係維持についての働きかけは特にないが、採択者間で個々にSNS等で繋がっている。
秋田県	若者と地域をつなぐ プロジェクト事業	県から何かをすることはない。連絡ツール（スラックコミュニケーション）を使い、個々で連絡を取れるようにしている。個別のやりとりが気軽にできることから、オンラインが使いやすい。
栃木県	栃木県地域づくり 担い手育成事業	インターン先で一緒になったもの同士などでSNSの交換など行なっているようであるし、情報伝達にはプラットフォームのウェブサイト「あしかもメディア」を活用することもできる。
山口県	やまぐち元気生活圏づくり 協働支援事業 （人材育成事業）	研修中、参加者同士でお互いに話をしてもらう場を設けている。昨年度、集落支援員同士、LINEでやりとりをしようと話していたが、今年度、その方々が親しく話されおり、関係が続いていることを感じた。
山口県	地域活性型 インターンシップ推進事業	特になし。

18　今後の改善点など

石川県	地域交流による 高等学校活性化事業	引き続き、指定校において、様々な事業提案がなされることを期待 。
石川県	石川地域づくり塾	本事業は森山氏の貢献が高い。今後とも森山氏と相談のうえ事業を実施していく。活動がマンネリ化、携わってきた方も高齢化してきているのでそのあたりを常に刷新する必要がある。
岡山県	おかやま創生 高校パワーアップ事業	「高等学校魅力化推進事業」という新たな事業に切り替えて実施を行う。
岡山県	高等学校 魅力化推進事業	現状としては、県立学校において県内の学生を取り合っている状態。今後はどうやって外部の学生を呼んでくるかが必要であるとして検討を進めている。選ばれる学校にするにはどうすればよいか、研究を始めている最中である。コーディネーターに関して、3年間終了後のコーディネーターの雇用に関して自治体ごとで工夫している。再雇用、金額の上乗せ等がある。今後も自治体ごとで継続して頂きたい。協力隊の活用など。
岡山県	アートで地域づくり 実践講座	講座修了生が、講座修了後、アートを活用した自主企画イベント実施するには、「地域住民の共感を得るのが難しい」「資金調達が難しい」などの様々なハードルがあることから、現在も行っているフォローアップ体制をより強固なものとすることを検討中。
秋田県	若者チャレンジ応援事業	審査までの提案の磨きあげ。今年度からスキームを変更している。今週が最終発表だが、申込（7月）→プレゼン採択（12月）までにメンター（アドバイザー）がアシストし、プレゼンまでにスキルを磨いており、申込者の「提案の質」をあげるスキームにしている。
秋田県	若者と地域をつなぐ プロジェクト事業	縦に長い県であることから、県央部でイベントを開催する場合が多く、県北、県南の方にも参加しやすい環境づくりを考えなければならないと考えている。
栃木県	栃木県地域づくり 担い手育成事業	昨年度より現在の形になったため、当面は様子を見ていきたい。ただ、インターンシップの受入先については、受講生の選択の幅を広める意味でも拡大も検討していきたい。 参加者の募集に対する周知の方法や、遠隔地にある団体への参加の方法（送迎等）が課題である。
山口県	やまぐち元気生活圏づくり 協働支援事業 （人材育成事業）	人材育成には時間がかかることから、継続が大事。地域づくり団体はもとより、集落支援員や行政職員等の育成が大切であると考える。育成のためには、色々なことを知り、活動してもらうことが重要。具体的な取組みは検討中である。
山口県	地域活性型 インターンシップ推進事業	参加している各学校では、次年度に向けて活動のテーマや方法についての見直しを考えている。県としては効果的な形で支援できるか、支援数を想定し、ミスマッチのないよう予算計画を練っている。事業については各学校に一任している。

19　事業を通じた「地域づくり」の意義

石川県	地域交流による 高等学校活性化事業	直接の回答は得られなかったが、「ねらい」にあるとおり、様々な地域交流活動を通じての、地域に愛される学校づくり、地域を支える人材の育成を図る。このような活動が地域づくりに繋がっているものと考えられる。
石川県	石川地域づくり塾	講師談によるところもあるが、まず自らの地域に関心を持つこと。それぞれ生業があるが、住まう自らの地域の状況をつぶさに見つめ、何らかの行動を起こすこと。当然１人では困難なこともあり、そこは賛同者を募る努力をすること。そういった取組みが地域づくりであり、本事業でその手法なりを学んでほしい。
岡山県	おかやま創生 高校パワーアップ事業	人づくり、人材育成。高校卒業までに学校が立地する地域について知り、地域の大人と協働する（関わる）ことにより、地域への愛着がわくとともに、地域に貢献したいと思うようになる。一旦進学等で県外へ出ても戻ってくる、又は関わる率が高くなる。
岡山県	高等学校 魅力化推進事業	人づくり、人材育成。高校卒業までに学校が立地する地域について知り、地域の大人と協働する（関わる）ことにより、地域への愛着がわくとともに、地域に貢献したいと思うようになる。一旦進学等で県外へ出ても戻ってくる、又は関わる率が高くなる。
岡山県	アートで地域づくり 実践講座	回答無し
秋田県	若者チャレンジ応援事業	若者と触れ合って「秋田県には何もない」というネガティブな考えを持つ人がいる一方で、秋田県を変えてやろうという気持ちを持っている人もたくさんいる。そういう人を発掘し、応援していくことが地域活性化に繋がるのではないかと考える。引っぱり出しするのが本事業の役割だと考える。
秋田県	若者と地域をつなぐ プロジェクト事業	地域づくりという大きな課題は、地域の課題を解決していくことであると考える。そのため、この事業ではまず地域を観察するところから始めている。そのうえで自分の目で感じて考える力を育てる手助けをしていく。誰かに言われたからではなく、この事業を通して、受動的な状態から、自発的、主体的な人材になる手助けをすることが役目。
栃木県	栃木県地域づくり 担い手育成事業	先述のとおり、受講生達は「地域づくり」がしたい、と考えて来ていることは少ないと感じる。しかし、何か行動をおこしたいとは考えている。身近な人の笑顔を増やすために手を差し伸べたいとか、そういった暮らしの延長線上にある理想や願いを打ち出すことがこれまで薄かったのではないかと感じる。そういうことを設定することも必要なのではないか。
山口県	やまぐち元気生活圏づくり 協働支援事業 （人材育成事業）	「地域づくりは人づくりから」と言われている。人は大きなキーワード。リーダー、活動していく人、支える人の人材育成が重要で、地域の中でこれらの繋がりを産んでいくことで発展していくものと考える。本事業は、その一助になればと思っている。
山口県	地域活性型 インターンシップ推進事業	この事業は、地域活性化にあたる人材づくりの育成をするということである。若い時からの意識づくりの一端を担っており、本事業はその裾野を広げるというイメージ。

20　中長期展望

石川県	地域交流による 高等学校活性化事業	指定校において、様々な事業提案がなされ、それらの実施を通じて、地域づくりが進むものと考えられる。
石川県	石川地域づくり塾	県庁なら明確にあるかもしれないが、協会の事業であるため、いつまでという明確なものはない。協会が必要とされる。更に地域づくりの中核を担う。そういったことのため、本事業は今後とも必要ではないかと思われる。
岡山県	おかやま創生 高校パワーアップ事業	高校魅力化推進事業へ繋げること
岡山県	高等学校 魅力化推進事業	本事業は令和3年度で終了。 令和4年度は、全国展開をして魅力作りをサポートしている企業に入ってもらい、魅力作りの他県の情報を入れてもらったり、視察をしたりしながら、地方で人の取り合いをするのではなく、どう町から人を連れてくるかということを検討しながら、まちから人に選ばれるために何をしなければならないのかの研究を始めたところ。事業としては、今年度、来年度の2年間はこの企業に入ってもらい取組むが、2年だけでは成果が出てくるものではないと思っている。きっかけづくりである。
岡山県	アートで地域づくり 実践講座	アートを活用した地域活性化という考え方が、県内のいくつかの市町村にも浸透しつつあるが、より多くの市町村において認識し、実際に取組を進める状況となる。県内の文化団体や、当該講座修了生をはじめとするアートに興味のある個人が、アートを活用した自主企画イベントを、県内各地で実施することができる。上記のような環境が醸成できるまで、当該事業を継続したいと考えている。
秋田県	若者チャレンジ応援事業	継続は必要。また長期にわたって継続すべき事業であると考える。そのために、申込者を増やしたい。どのようなプロモーションをしていくのが最適かはまだ検討中。
秋田県	若者と地域をつなぐ プロジェクト事業	今後もこの事業は学生メインで行っていく。長期的に継続していくことが必要であると考える。しかし、教員や大人の地域づくりに対しての意識づくり、意識改革もしていかなければならないと思う。その方面での事業も検討する必要があると感じている。
栃木県	栃木県地域づくり 担い手育成事業	社会の様子も3～5年で変わっていくので、それに合わせてプログラムの内容も検討していく。その変わり目に、起こりうる社会課題に対して、この事業を通じて、支える側を増やして行きたい。魅力ある人や会ってみたい人に、うまく若者をつなげる仕組みが日常化できれば、ひとりひとりの自信にも繋がるのではないか。
山口県	やまぐち元気生活圏づくり 協働支援事業 （人材育成事業）	地域づくりの担い手確保は課題である。今後も継続して、研修参加の呼びかけをしていく。また、内容の見直しも必要。とある地域で、地域と社会福祉協議会が連携して地域づくりが上手くいっている取組みがあった。色々な団体との交流・協力が必要だと考えられる。
山口県	地域活性型 インターンシップ推進事業	各学校の取組みが充実していってほしい。可能な限り事業を継続していきたい。

個別事項

21　岡山県　おかやま創生高校パワーアップ事業

番号	設問	回答
1	推進校指定は、どのような考えの元に行なっているか。	基本的には都市部に所在しない学校で、地域との連携した教育活動を必要とする学校である。必然的に中山間の学校が多くなる。
2	事業名にも使われている「おかやま創生」の定義は何か。（県全体で取組む目標となっているのか。）	想いとしては、報告書11頁のとおりである。「おかやま創生」という言葉は、県の総合戦略から引用している。
3	岡山大学に業務委託する形で業務を進められた理由は何か。 （他に競合する相手は居たのか。）	事業開始当時、県内で地域学の学部があったのは岡山大学だけで競合相手はいなかった。
4	岡山大学は平成30年度から令和2年度までの3カ年であるが、それ以前の2年間はどこが受託していたのか。	事業展開なし
5	「地域学」は指導メソッドか、あるいはコンテンツに重きを置いたもののいずれか。（前者であれば、人事異動も適時行えるものと考えるが、後者の場合には当地の地域に関するものなので、移動に配慮が必要ではないかと思料。）	コンテンツに重きを置いたものである。なお、指導メソッドについては、高校教育課指導班において、PBLガイドブックを作成（R3）し、「地域学」を含めたPBLの普及を図っている。
6	地元自治体の支援について期待することは何か。既に行われているものがあれば、その充実を図るといったイメージか。	地域課題の探求については、学校の中だけでは学べない。実際に外に出て学習することが大切であるため、その際に地元自治体に同行いただくなどの協力をお願いしたい。
7	地域コーディネーターについて、推進校に限らず設置している学校があるそうだが、教育委員会はどのような考え方のもとで確保・派遣を行なっているのか。	地域コーディネーターは、学校で選定。確保されている。その延長として、3年間の県事業終了後は、別事業の実施や、市町村独自で雇用や契約を継続されているケースもある。
8	高校が地域に果たす役割は何であると考えるか。	高校には、経済効果に加え、移住定住政策、地域の産業の担い手、地域の持続可能性を高めるものだと感じている。

22 岡山県 高等学校魅力化推進事業

番号	設問	回答
1	【事務局】 本事業とパワーアップ事業の棲み分けはどうなっているのか。例えば、林野高等学校は、H30～R1 はパワーアップ事業の推進校、令和2 年度より高等学校魅力化推進事業【リージョナルモデル】の指定校となった。とのこと。この変更はどのような考えに基づくものか。	林野高等学校がパワーアップ事業を継続するか、高等学校魅力化推進事業へ切り替えるか選択されたものである。
2	【事務局】 リーディングモデルグループの取組み成果として、目標に据えていた新学科の設立は達成できたか。	新学科は設立できなかったが、普通科高校において新コースを設立した。また、工業高校において、これまで電気系と機械系で完全に分かれて授業していたものを、一緒に地域課題の解決に取り組む授業を設けた。更に、クラブ活動として地域課題の解決に取り組むラボを設立したケースもある。
3	【事務局】 リージョナルモデルグループの取組みについて、地元自治体との連携・協働の取組みはあったか。 鴨方高校の例： https://www.pref.okayama.jp/uploaded/attachment/263419.pdf 上記取組みで、何らか浅口市の支援はあったか？（市への聞き取り。）	矢掛高校、和気閑谷高校、邑久高校、鴨方高校、高梁城南高校において学校運営協議会を設置した（矢掛高校は令和4年度から） 矢掛高校、和気閑谷高校、邑久高校については、立地する地元市町村から、学習に関する財政支援が行われた。

23 秋田県　若者チャレンジ応援事業

番号	設問	回答
1	【大杉座長】 本事業の参加者の属性及び職種について、教えて欲しい。	社会人の参加者がほとんどである。職種としては、個人事業主、病院勤務、議員等である。（ジェラートの方は議員）
2	【大杉座長】 当該事業の実施計画年は。	最長2年間で、年度単位でカウント。基本的に2年計画で実施。
3	【大杉座長】 メンタリングの頻度（回数）について	回数はメンターによってばらつきがある。6、7回程度の実施。回数は採択者とメンターで相談し、調整している。
4	【河井委員】 地域コミュニティの活力が低下してきているとのことであるが、若者が動き出してきたことによって肌感覚としてどう感じているか。	テキーラの原料を使った新しいお酒の醸造、特にこの醸造に関しては、男鹿市の旧駅舎を利用して作っている。そのため、男鹿市では盛り上がっているとのこと。
5	【河井委員】 事業のKPIを採択者数と設定しているのは分かるが、課題解決となると地域コミュニティの活性化についてKPIに言及する必要があるのでは。	KPIの設定には苦慮している。 （河井委員） 全県に簡単に広がることもちろん難しいが、KPIの設定は、関わった人に対して秋田県の好感度は高まったか、秋田県のことをより良くしたい気持ちになったか等ということを測るようにしたほうがKGIに近いKPIに近づけるのではないか。県民にもっと広がるのではないかと思う。
6	【島田委員】 県として成果物を求めていないということだが、4,000万円の予算規模の事業効果がある、進歩があるといったことあったほうが良いのではないか。採択した人の中でこんな変化があった、何年か後に秋田に地域のプラスポイントがあるのではないか。肌感覚を聞きたい。	成果を求めるのではなく、過程を応援する事業であることから、19件の事業が一つも脱落せずにやってきていることが成果であると感じる。ゲストハウス、ワインづくり等、発表できるものも実施できている。 （島田委員） 　定期的なヒアリングを行って、興味を持って繋がりをもつ手段を考えたほうがいいのではないか。募集などもSNSなどを使っているため全国的に発信するツールもあり、さらに19事業で各コミュニティを作って知識やメッセージを発信していくことが他の自治体への良いアピール、お手本になるのではないか。移住ということではなく、関係人口を増やすという面でもKPIを設定することもできるのではないか。
7	【吉弘委員】 市町村との連携が課題とのことだが、状況をもう少しお聞きしたい。	そもそも会話をすることがない。この事業をやっていることすら知らない 市町村に対してその温度差を解消するのが課題。
8	【吉弘委員】 外部のメンターについて	県内外は問わない。選定について、今は委託先に委ねている。
9	【吉弘委員】 評価している、あるいは参考にしている都道府県等はあるか。	鳥取県米子市の「海外留学助成」という事業を参考の一つとしているという資料が内部で保管されていた。
10	【吉弘委員】 異動に伴う問題について	自分自身、今年からこの地域づくり推進課に異動となった。職員に限らず、委託業者も当然変わる可能性はある。現況として、新規分はJR企画で、もし来年、他業者であっても2年目の伴走支援はそのままの業者で行う予定としている。

24　秋田県　若者と地域をつなぐプロジェクト事業

番号	設問	回答
1	【大杉座長】 秋田県の3つの事業（若者チャレンジ、プラットフォーム構築事業、若者と地域をつなぐ）は、同時期に若者対象にスタートしたということだが、その違いについてもう一度説明してほしい。	①若者チャレンジ・・・やりたいことが分かっている人を対象にした事業。 ②プラットフォーム構築事業・・・何かやりたい、やり方が分からない、仲間がいない人が対象で、仲間づくりのための事業 ③若者と地域をつなぐ・・・地域について考えたことがない高校生を対象にした事業
2	【大杉座長】 昨年まで本事業の参加者に社会人も加わっていたが、今年度はなぜ対象外にたのか。ある意味、社会人のような年上の方が年代層に入るのもいいのではないか。	この2年間、本事業に参加された社会人の方は、既に地域に興味・関心がある方の参加が多かったことから、令和4年度は社会人を対象外としたもの。また、本事業の今回の参加者は全員高校生であった。
3	【島田委員】 個人の自発的参加ということだが、アクションを加速させていくための仕掛けについて教えてほしい。	募集前に事前説明会を開催している。
4	【島田委員】 共通に起きている進化・変化などをBefore、Afterのように表すことができるのではと考えるが、そのくくりで教えてください。	before：地域に興味がない人が多かった。 After：地域を見ることによって、いろんな事、ものに目を向けるようになったと いう言葉がよく出てくるようになった。 （島田委員）自発的なアクションを起こさせる取り組みをもっと考えていくと良いかと思います。このようなbefore＆Afterを取っておくとものすごいデータになるのではないかと思うため、ぜひ検討してほしい。
5	【河井委員】 気持ちの変化というものを聞き、もっと簡単に定量的な数値を出すことにするのが良いと思った。KPIについて、応募者数にするのはもったいない。	参加数が分かりやすかったことから設定したもの （河井委員）せっかくこの事業を楽に評価する方法があるため考えても良いのではないか。例えば、参加したきっかけをもう少し深堀りし、参加意欲を確認するのも面白い。 また、地域に関わりたいですか、地域に関わりたくなりましたか等といったような感謝意欲を確認しても良いのではないか。さらには、秋田県が好きですかという推奨意欲の確認。話し方、発表する場面を持つなど、色々なやり方がある。また、美しい成果物は必要ではないということだが、事業評価を行うことは必要。ただ無理なく楽をして評価・成果を高くする手法をとっていくことが良いのではないかと考える。高校生が自発的にやる取組みは稀有であるため、広め、見せていく手段も積極的に考えていただきたい。
6	【吉弘委員】 学生が参加している本事業を将来的にはOB・OGで運営する可能性等は考えているか。	令和元年度から同じ委託業者がやっている関係もあり、その関係性から繋がっている。実際に運営側として参加している方もいる。
7	【吉弘委員】 庁内での推進体制、協働は。	市町村との連携はなし。庁内では、チラシの配布を依頼する程度。

25　山口県　やまぐち元気生活圏づくり協働支援事業（人材育成事業）

番号	設問	回答
1	【吉弘委員】 委託業者は長期契約されているのか。また、県内の地域づくり団体か。	公募型プロポーザル方式で、毎年募集している。地域づくり専門の団体ではなく、ご本人たちが協働をテーマに活動している団体。
2	【吉弘委員】 講師の選定は、県で決めているのか、委託業者が決めているのか。	委託業者から案を出してもらい、県で決めている。基本的には、委託業者の案のままで選定していることが大半。
3	【吉弘委員】 コロナ禍になって、実施の仕方に変化は生じたか。例えば、新しい団体が生まれた、辞めていく団体が出た等	元々活動が活発な団体が多く、コロナで集まりができないと良く聞いていた。新たな団体が出てきたということは聴いていない。昨年度、集落支援員を対象にZOOMの使い方を勉強した。コロナになり、オンラインに切り替えことで、副次的な効果として、リアル開催なら遠くて参加できなかったが、オンラインだから参加できるといった効果があった。
4	【吉弘委員】 市町村との連携において、市町村にこんなことを協力してほしい、こんな連携ができたらというようなことはあるか。	地域の実情によるが、県としては本庁の職員と話すので、直接地域に出向いている市町からは、地域の状況を詳しく聞くことができる。しかし、市からしたら支所の職員が地域に出向くほうが、より地域に近い立場で支援ができるので良いという考えもあるので一概には言えない。
5	【河井委員】 こうした施策によって養成された人材が繋がっていることはとても重要だと考えた。その上で、養成された人材が新たな人材を掘り起こす取り組みが、研修や自治体事業の紹介に止まらないもの、次々に連鎖するような形で、生まれているのか。	実際に生まれているかもしれないが、見えにくいものがある。萩市の佐々並地域の移住のための見学会があったので、宇部市の小野地域でもでもやってみたいという先行地域と話をされた結果、連鎖が起きているという情報もある。
6	【河井委員】 周防大島は地域振興において著名ですが、県として何か、地域づくり人材養成の点で、こういう部分が注目できるというようなことはあるか。	町の職員が入り込んでいると思う。職員数自体、多くはないが、詳しい職員が多い。
7	【島田委員】 やまぐち元気生活圏づくり協働支援事業（人材育成事業）について、過去3年間の研修実施の結果、どのような変化が起きたのか。どんなよかったことがあったか。研修の内容を変えようと考えている店はあるか。	地域づくりの担い手確保が課題である中で、地域のリーダー、活動する人、支える人がこれまで点で活動していたのが、本事業の取組みの結果、点が線となり、繋がりが生まれ、取組が重層化していく兆しを見ることができた。また、研修の内容を変えようということでは、地域と社会福祉協議会が連携したことで地域づくりが上手くいっている取組みがあった。

26　山口県　地域活性型インターンシップ推進事業

番号	設問	回答
1	【事務局】 教育委員会が本事業に取組んでいることに関心を抱いている。教育委員会の体制として、各学校に目利きをするキーパーソンはいるか。	県は働きかけていない。各学校でコネクションを活用しているものと思われる。
2	【事務局】 地域活性型インターンシップ推進事業のなかで、第１次産業に特化しているようだが、やはり多いのは第１次産業の農林などになるか。	地域の特産品をしているところ、お茶の販売店が多い。学校によっては大学と連携しているところもある。
3	【島田委員】 素晴らしい取り組みだと思う。このアイデアはどのような背景からうまれたのか。	平成２６年の話になるが、これまでの取組を継続した上で、高校の普通科にスポットライトを当てようという話になったものと推察される。
4	【事務局】 この事業を実施していることによる、学校、生徒、企業、地域、それぞれへの効果が知りたい。	毎年度、年度末に実績報告書が提出される。これを読み取れば、効果が分かる。

令和４年度　石川地域づくり塾成果発表会　視察結果

１．日時と場所

日時：令和４年１１月１９日（土）午後２時００分～午後５時００分

場所：石川県地場産業振興センター新館５階　第１３研修室（金沢市鞍月２丁目１番地）

２．成果報告会の概要

連続講座の成果として受講生が作成した「マイプラン（実行計画）」の発表の場として開催した。今年度の受講生は、地域住民、大学生、福祉団体関係者、地域おこし協力隊と様々で、それぞれ、地域の担い手不足、空き家問題といった身近な社会問題から起業、事業化といった幅広い課題意識を持った方が受講した。当日は、９名の受講生のうち７名が発表会に参加した。

次第

- 開講
- 年間受講生からの研修成果発表
- 講座のまとめ
- 修了証書授与式
- 閉講

受講者の成果発表　＜発表順に記載＞

①地域団体関係者

＜発表概要＞

・自らの居住地の活力の衰退、空き家の増加を背景に、テーマは２つ、①町内の大きな公園の東屋の有効活用を通して賑わいの場創出、②空き家の有効活用による賑わいの場の創出。

・賑わいの場として、これまでの取組みとして、町内の公園にある東屋に注目。

従来風が強く滞在に向かなかったが、市役所の力を借りて最も吹き込む方向に防風ネットを設置。滞在が可能になったとのこと。今後は、催事にも使えるよう全面的に防風ネットで覆えるよう市役所と交渉していきたいとのこと。

・また空き家について、調べてみると町内に多くあること分かった。一部所有者にまで辿り着き、今後交渉を重ね、展示会などができる地域のためのスペースができるようにしたいとのことであった。

・空き家の家主に辿りつき、話を聞くと、「今は貸す気や売る気がなく、決めていない。」空き家が多いことが分かった。また、連絡先が不明な物件がある。

・連絡がついた持ち主とは今後も継続交渉で、連絡待ちの進行形である。また、資金に関してクラウドファンディング、自己資金、ランニングコストは売上、ゆるキャラグッズで賄えないかを話しあった。

・新興住宅、旧部落の役割分担で依頼した方が良いのではないかと話し合った。

・てみるフェスの開催が決定した。内容は、写真の古典と美顔教室。やってみる事が大事だと思う。

・具体的なネーミング案を披露。

・受講の感想として、講師の助言に励まされ、関係者、仲間との交流は大変励みになった。引き続き交流を図っていきたいとのことであった。

・発表に対し、参加者から、「てみるフェスの内容と成果について教えてほしい。と質問があり、「今年度の冬の間に実践する。」と言っていた。

・また、発表者に対し、講師から、自分で参加者を集める、関わる人が増えれば、参加者も増えるサイクルになるのではないかとのアドバイスがあった。

＜インタビュー結果＞

（受講した動機）

・常に問題意識を持っている中、県の HP を見て自分に合っていると思い申し込んだ。

（受講した感想）

・毎回、講師の話が非常に参考となり、講師のアドバイスが大きな改善に繋がった。

②一般住民

＜発表概要＞

・当たり前が誰かの特別になると思って日々行動している。

・石川県の魅力を食からアピールしたい。自身の趣味とも合い重なり県内のグルメを巡る「満腹部」の活動を提案。現在、部員は2名で、部員獲得を図ると共に県内のグルメの魅力発信を行なおうとするもの。

・満腹部として準備できていないものは、県内のお店、生産者の発見、記録、コミュニティの場の創設とのこと。

・受講者の役割は、部員（参加者）と生産者（店舗）の橋渡しになるといったもので、生産者からの情報や特典の提供を受け、ツアープラン化し部員の参加を募るもの。部員から部費を徴収し、進めて行きたいとのこと。

・過去の活動報告として、3事例のツアープランを紹介。

・仕事でも市街を回り、SNS（インスタ・ツイッター）に発見を投稿し、活動。今後、自分の活動フォームを見つけていきたい。

・発表者に対し、参加者から、「部費に関しての考え方の質問、確認」があった。それに対し、「代理店よりは、SNSで参加を募る程度で考えている。」と回答し、さらに「事業なのか趣味なのか曖昧。継続性を考えるなら、もう少し事業（代理店）に寄った方が良いのではないか。」といった意見があった。

・また、「ツアー名を魅力的にし、その上で、どこに連れて行ってもらえるのか分からないような名称にすれば、参加者の興味を増幅させ手を上げる人が増えるのではないか。」といった意見があった。

・発表者に対し、講師から、「活動の成果の測り方を決める。効果検証を見える可する癖をつけた方が良い。」とアドバイスがあった。

＜インタビュー結果＞

（受講した動機）

・自分が日本をどの程度知っていて、どの程度好きなのかなと思った。息子を旅行に連れて行った際の楽しかった経験から、楽しさを広めたいと思っ

た。

・また、県の地域振興課の方と親交があったため、参加した。

（受講した感想）

・今後の方向性として、利益を求めるのではなく、自分の楽しみで取組んでいく。

③福祉団体関係者

＜発表概要＞

・明るい就活をしたいという想いから、今まではボランティアであったが、事業として行っていきたいと思った。

・今後は、一般社団法人の設立予定である。

・市からの推薦を受けて今回、この塾に参加した。

・今は 100 年時代に突入し、終活についての考え方が重要となる。高齢者が増え続き、40%以上になると言われているが、今までに体験したことのない時代に突入する。

・事業者に話をする際は、「終活＝暗いイメージではなく、明るくしませんか。」ということで話を聞いてもらった。産まれたら必ず誰かが亡くなる。「今後の時代は、自分のことは自分で準備をしなければならない。」という話をした時に、まわりの人々は納得していた。

・いくつかの事業者と関わりを持ち始め、就活研修ツアーの実施に辿りついたが、コロナで延期となってしまい、大変残念であった。

・いくつかの事業者に、明るい就活をしましょう！と話かけた。

・関わる分野が多岐にわたる、どこが入り口になるのか、講師自身も考えさせられたとのこと。

・発表に対し、講師から、「まずは見えている課題から解決していくが、どういう構造でその問題が起こっているかの思いを馳せると色々と準備していなかければならないと思う。これを総力戦で解決していこうという仕組みを今後、作っていけるといいと感じた。」とのコメントがあった。一社、一人で解決ではなく総力で解決していく。

＜インタビュー結果＞

（受講した動機）

・ボランティアをしていた中で市から推薦してもらい、参加した。

・長生きするとお金もかかるため、そこのケアや相談をさせてもらっている。

（受講した感想）

・地域おこし協力隊は知らなかったし、アドバイスをもらえるのはありがたかった。

・事業者の囲い込みのアドバイスが大変役に立った。

・税理士や不動産など、多くの人と繋がりをもつことができ、ありがたい経験であった。

④地域おこし協力隊（金沢市）

＜発表概要＞

・北海道小樽市出身で、カレーの魅力に惹かれ、カレー店の起業のため、今年の４月から金沢市犀川地区で地域おこし協力隊として活動している。

・金沢市犀川地区の地域おこし協力隊のミッションはフリーで、地域に根ざしたカレーを作ることが、地域の願いでもあり、自分の夢でもあることから起業することにした。

・飲食店が少ない中でカレー店は地域の魅力の一つとなる。自分の夢と地域の要望が一致した。町の課題である、飲食店が少ない、地域ＰＲの特産品が無い、長い目でお金を生み出す事業、若者の交流。この点は、カレー店を出すことで解決できたらと考えている。また、食材も地域のものを使用したい。

・経営として、野菜マルシェ、キッチンカー、自家栽培の農業体験など、そこに行けば非日常を味わえる事業としたい。

・看板メニューとしては、無水パキスタンカレー、他に季節ごとのメニューも用意。

・ターゲットは 20～30 代女性で、素揚げ野菜を乗せたり、インスタ映えする料理を提供。

・価格は 1,000 円～1,500 円の範囲で、セットメニュー販売を基本スタイルとする。
・今後の活動計画として、カレーの試作や研究は通年で行うにしても、イベントや行事で販売し、物件探しを始めていきたいとのこと。2 年後にはプレオープンをしたい。
・発表に対し、参加者から、「アピールするイラスト、例えば、カレーと色が濃いめのイラストを組み合わせ、「このカレーだよねと印象付けられるのではないか。」と意見があった。
・また、別の参加者からは、「第三者の評価はどうなっているか。」と質問があり、それに対し、「結果としては特にまとめていないが、以前、高校の文化祭において、単価 500 円で 100 食を完売し、購入者からも美味しかった。と言ってもらった実績がある。」と回答した。「これからも多くの実績を積んでいきたい。」とのこと。

＜インタビュー結果＞

（受講した動機）
・個人的に金沢に憧れがあり、カレーも熱い場所でもあり、チャレンジしたいという気持ちで金沢に来た。地域おこし協力隊の募集を知り、協力隊としての起業の方法もありだと思い、現在に至っている。
・今回の参加のきっかけは、県の方から紹介されたのがきっかけである。

（受講した感想）
・客観的な立場で教えてくれる。また、知り合いも多くできた。講師の方のアドバイスは大変役にたった。人との繋がりが一番、コミュニティが重要。

⑤地域おこし協力隊（七尾市）

＜発表概要＞

・現在、七尾市高階地区で地域おこし協力隊として活動している。
・高階あおぞら市として、地域の魅力を発信していきたいとのこと。
・その中で、高階まつりはコロナにより３年続けての中止。来年度の開催に向

けて、来年２月までにイベント実施内容の方向性を決めなければならない。

・課題として、コロナで人を集めることが難しい、企画のマンネリ化があるが、課題解決に向けて、集まらなくても良い手段の活用（オンライン、期間制）、屋外での実施、従来の良い所を残しつつ、新しい考え方のイベントを実施する解決案が挙げられた。

・プランの目的として、一人一人の能力の発揮、地域の魅力発信、発展と地域づくりと考えているが、みんなで楽しめることに重点を置き、考えたいと思ったとのこと。

・目指すのものとして、①家庭菜園の推進、余剰野菜の廃棄、マンネリの解決として掲げた。また、②地元の野菜の提供、③すべての人々にやさしい地域づくりを挙げていた。

・楽しみの提供が第一であり、様々な形で参加できる人を増やしていきたい。

・発表に対し、講師から、「地域おこし協力隊が自分たちの地域に来てもらえるとまわりの人々は自分たちが主体ではないという考えを持つ人たちが多くいる。自分たちで自治をやっていくという気持ちを引き起こせるような動きをぜひ行って欲しい。」との意見があった。

⑥地域おこし協力隊（七尾市）

＜発表概要＞

・U ターンで地元の七尾市で地域おこし協力隊として活動。

・地域おこし協力隊卒業後は、自然栽培で農業を営み、栽培した農作物の加工品の製造から販売まで行う予定。自然栽培を行いたいとのこと。

・実体験として、原因不明の体調不良となった。（食べたいものを食べ続け、体重が 100 キロ）

・そのため、食生活の改善を行い、農業暮らしへの憧れをもつようになった。

・実体験を活かすため、マイプランとして、自給自足生活体験プラン～ハード体験コース・ソフト体験コース～を設定した。

・ハードプランは１週間とか１か月の自給自足を体験。

・ソフトプランは農業・漁業体験から料理作り、保存食づくりなどの自給自足

を体験してもらう。

・ターゲットは、①自給自足に興味のある方、②安心・安全な食生活に興味のある方、③田舎暮らしに興味のある方とした。

・今後、協力者を探しながら様々なプラン体験を行っていきたい。

・発表に対し、参加者から、「自分の現体験とプランが繋がる人の話しは説得力がある。」との意見があった。仲間探しがポイントだと思うとのこと。

⑦大学生　※オンライン

・動機として、イベント造りや、地域交流の場を作りたいと思って参加。

・きっかけは自分が住んでいる地域で、近所付き合いのよさ、地域の伝統行事の継承、交通機関の不便さもきっかけで、この塾に参加。

・要因として、コロナウイルスにより、イベントや交流が減少、地域交流する場が少ないことから、地域において学ぶ場が必要。地域を知らない人が多い。

・課題設定として、自分自身が手につきやすいということで、イベントへの手伝い、参加、出店を挙げた。空き家を使ったカフェを将来は開きたい。

・イベント開催にあたり、地域や人を知ることができる。人の繋がりが生まれることが素晴しく、新たな繋がりも生まれる。

・反省として、ＳＮＳのフォロワーも多く、地域の人への告知が必要と感じた。

・他地域の人への地元の産物をアピールし、繋がりを作りたい。

・最終的な目標はお店を出すことだが、学生の勉強の場、幅広い人々の利用、地域交流の場を作り、イベントの主催も行いたい。

・発表に対し、講師から、「支える人を支える仕組みも大切であることを感じた。」との意見があった。

３．修了証書授与式

主催者である石川地域づくり協会事務局である、石川県より、受講者一人ひとりに対して、修了証の授与を行った。

４．記録写真

【受講生の発表を聞いている様子】

【関係者全員の集合写真】

アートで地域づくり実践講座実証イベント「きざしの気配」視察結果

１．日時と場所

日時：令和４年 11 月 26 日（土）午前 10 時 00 分～午後 12 時 00 分
場所：街角ミュゼ牛窓文化館（岡山県瀬戸内市牛窓町 2835-1）

２．イベントの概要

文化芸術を活用して地域活性化に取り組む「アートで地域づくり実践講座」の受講生が、牛窓地区の文化、歴史、現状や課題を学びながら牛窓地区らしいイベントを模索、検討した集大成として、実証イベントを開催するもの。当日は受講生 10 名が参加した。

３．イベント内容

街角ミュゼ牛窓文化館建物内に、牛窓特有の時間を体験できる空間芸術を作成。中庭には、地域住民との交流を目的としたコミュニケーションスペースを設け、フィールドワークで得た住民のニーズを踏まえ、おでんと甘酒の出店を設けた。

４．参加者の感想等

〇山田茂講師

【動機】

プロセスを大事にする受講生と共に作品をつくりたいと思った。

【感想】

作品のコンセプト設定が大変であった。そこさえ決まればあとは問題無かった。受講者は、アートイベントのみではなく、地域づくりの色が強い。地域と繋がる方法として、回覧板に広報チラシを入れてもらったり、戸別訪問で配布して回った。その戸別訪問の中で、住民から、「おでんが食べたい」や「甘酒が飲みたい」といったニーズを聞き出し、会場に出店をした。戸別訪問した中には、イベントポスターを家に貼ってくれているお宅もある。本地域でのアートイベントは以前からあったが、地元の方にとっては、外部の方がやるものだという認識を変えたイベントになった。

〇江森講師

【動機】

人事系の前職を経て、地域おこし協力隊を経験した。地域づくりに携わる人材育成の取り組みは素晴らしいと考え講師に就任。

【感想】
　都道府県が主導で、アートイベントができる人材を育成事業はあまり聞いたことがない。素晴らしいと考える。

〇武本氏（受講生）
【動機】
　人材育成事業に賛同し参加。普段は美術の教員をしている。
【感想】
　地域密着型のイベントができたらよいと思っていたが、住民の参加も多く大変嬉しい。今後は、イベントを維持継続する取り組みが必要。

〇西村氏（受講生）
【動機】
　３月に牛窓地区から渡船する前島に移住。牛窓地区が盛り上がればよいと考え参加。
【感想】
　アートに初めて関わることもあり、活動自体はしんどいが達成感は感じている。メンバーに業務を振り分けるマネジメントも学んだ。

〇押方氏（受講生）
【動機】
　地域づくりに興味があった。
【感想】
　個性豊かな受講生で、バラバラの意見をまとめるのが大変だった。

〇嘉数氏（受講生）
【動機】
　地域づくりに興味があった
【感想】
　活動は大変だったが達成感はある。次年度の事業も行ける所であれば参加したい。

〇三好氏（受講生）
【動機】
　地域づくりに興味があった。
【感想】

当アートイベントと地域が繋がってる印象を受ける。０ベースからイベントを立ち上げる大変さを知った。

〇スミ氏（受講生）

【動機】

以前からの知り合いであった江森講師の誘い。

【感想】

当初は、県がパッケージを提示してくれるのかと思いきや、全くの０ベースであったため、作業は大変だった。一方で、お金だけ渡される自由度の高い事業は、なかなかないと思うので貴重な経験であった。

〇滝沢講師

【感想】

作品の作成を指導した。地域の中での作品は、地域を芸術に落とし込むことが大事。そのために、まずは地域を歴史から調べる。受講生も当然地域を調べた上で、地域との繋がりをもっておられるので、一般的なイベントと比べて双方感じるものはあると思う。

５．記録写真

【受講生の作品を見ながら音楽を聴いている参加者の様子】

【会場の外の様子】

令和４年度　とちぎ地域づくりインターンシップ
合同報告会＆インターンマッチング会　視察結果

１．概要

10 月、11 月に行なわれた受講生の地域づくり団体での活動体験について、各団体でどのような活動体験を実施したかの報告。そして、これからの本インターンに向け、各インターン先でどのような活動を予定しているか紹介。後日、受講生とインターン先とのマッチングを図るために設けられたもの。

２．参加者

受講生及びインターン先となる地域づくり団体※

※県北、県央、県南それぞれの地域から３団体ずつ。それぞれオンライン（Zoom）にて接続し開催

３．各インターン先からの発表

○　各インターン先の団体は、不登校児の居場所づくり、子育て支援、フードロス、子ども食堂など社会課題に取り組む。

○　受講生が体験した活動の内容について紹介

（一例）

- 小山市から委託を受けたまちづくり法人の事業の一環として、町歩き及び魅力発掘（自分が良いと思う所を必ず 10 枚写真を撮るなどのミッション）
- 真岡市で妊産婦支援を行なう法人の、LINE による相談に対する回答の作成など相談対応のシミュレーション。
- 放置竹林の課題に取り組み法人における、竹の伐採、竹クラフト作成、竹資源有効活用の企画など
- 子ども食堂を運営する法人での、配膳、給食の手伝い等

○　これからの本インターンでの実施内容について説明（※どのインターン先も３日以上、上限は無い団体も多くあった。また掛け持ちも可能なようであった。

４．受講生の感想など

○　今回、インターンに参加して、様々な活動がなされていることを知った。

○　本インターンを始めるにあたっての詳細な条件や内容について質問が交わされていた。

（一例）

・　子ども食堂のインターンを行ないたいが、現地までの足が問題、バスは何本走っているか。（答：最寄りのバス停は日に３本と非常に少ない。少し先にあるバス停なら８本走っており、迎えに行くことも出来る。）

・　インターン先を３つの中からどこにしようか迷っている。掛け持ちすることも可能か。（答：可能、可能な範囲で多く取り組んで困ることは無い。）

・　自治体プロモーションの動画作成に興味がある。動画撮影には専用の高価な機材が必要か。（答：スマホでも可能）

○　受講生の受講動機としては次のとおり。

（一例）

・　公務員志望で、県庁のホームページを見ていたらこの事業と出会った。参加すれば地域のことが良く分かるのではと思った。

・　同じく公務員志望、公務員を志望する以上、足下の状況を知らないと使い物にならないと思った。

・　大学で地域活性化の専攻、大学から紹介され、現場を学べるのではないかと思った。

・　地域に貢献する仕事がしたいと思い受講した。受講するまで、県内でこのような様々な取組みがなされていることは全く知らなかった。

５．所感

○　どのインターン先も熱心で、インターンといえども責任ある役割を担わせ、その難しさを実感させると共に、その先にあるやりがい、喜びが学べるなど、誠意ある対応に努めていた。

○　本報告会を通じて、受講生は自分が体験していないインターン先も知ることができ、これがまた県内の地域づくり活動の裾野の広さを実感する機会となった。

○　受講生の受講動機も様々で、行政志望者が、まず現場を知らなければいけないとの意識であったり、情報発信力であったり、交渉術であったりの自身のスキル向上を図るなど、修了生は様々なフィールドに出て行くものと推測。今後修了生が厚みを増せば、応援団としての役割も果たせる。そのためにも関係維持の取組みが何よりも大事だと実感した。